

修多羅小学校・古前小学校の学校統合における 校舎位置（教育委員会事務局案）について

1 統合後の校舎位置（教育委員会事務局案）（以下、「校舎位置（案）」という。）について

修多羅小学校と古前小学校の統合後の校舎位置（案）は、現古前小学校とする。

※ 現古前小学校の校舎を長寿命化改修するにあたっての仮校舎等の施工方法については、4月に予定している統合準備委員会で決定予定。

2 決定期理

統合後の校舎位置（案）としてふさわしい学校は、校舎位置検討会議の7名の委員の評価と協議の結果を参考に、「防災・緊急時の対応」「通学」「施設」「学習」「校地内の安全性」の5つの項目を総合的に判断して古前小学校を選定した。

3 校舎位置（案）決定方法

検討にあたっては、教育委員会内の関係各課に市長部局の危機管理室を加えた7名の委員で構成する「校舎位置検討会議」を立ち上げ、「防災・緊急時の対応」「通学」「施設」「学習」「校地内の安全性」の5つの項目ごとに評価を実施した。最終的には、「校舎位置検討会議」の結果を参考に、学校規模適正化推進会議において、協議の上、校舎位置（案）を決定した。

【5項目ごとの評価結果】

（1）防災・緊急時の対応に関すること

- 警察署等の緊急施設までの距離や学校までの緊急車両進入のし易さについては、両校とも大きな差は見られなかった。
- 災害時の校地の安全性としては、両校とも後方に崖を抱えているが、修多羅小学校はイエローゾーンに属しておらず、避難所として全ての災害種別に適応しており、評価が高かった。

⇒防災・緊急時の対応の面では、修多羅小学校の評価が高かった。

(2) 通学に関すること

○通学路の最長距離は、修多羅小学校の場合は2.7 km、古前小学校の場合は1.6 kmであり、古前小学校の評価が高かった。

○通学路の高低差は、両校とも大きな差は見られなかった。

○校地周辺の状況としては、修多羅小学校正門前の道路の道幅がせまく、坂道で安全上の課題があるため、古前小学校の方が評価が高かった。

⇒通学の面では、古前小学校の評価が高かった。

(3) 施設に関すること

○校地面積は、修多羅小学校は7,618 m²、古前小学校は12,824 m²であり古前小学校の評価が高かった。

○校舎・教室等の状況については、どちらも十分な空き教室を確保しているが、最大教室数や校舎の大きさ、見通しなどの安全性において、古前小学校の評価が高かった。

⇒施設の面では、古前小学校の評価が高かった。

(4) 学習に関すること

○両校とも周辺の自然環境や騒音、排気ガス等の心配もなく、静かな環境で授業を行うことができ、学習に利用できる施設や公共交通機関利用のし易さなどの面で、大きな差は見られなかった。

⇒学習の面では、評価は同等であった。

(5) 校地内の安全性に関すること

○校地内の安全性については、北九州市防災アドバイザー及び（一社）北九州法面防災協会に現地確認を依頼したところ、両校とも現状の対策で問題なく、施設改修を行うに当たって、両校に大きな差は見られなかった。

⇒校地の安全の面では、評価は同等であった。

第2期学校統合に係る校舎位置決定までの流れ

